



高齢者施設における**超老芸術**作品を通じた
対話型鑑賞と**絵画制作ワークショップ**モデルプログラム

主催：アーツカウンシルしずおか
受託者：NPO 法人レザミ・デ・ザール

高齢者施設における超老芸術作品を通じた 対話型鑑賞と絵画制作ワークショップモデルプログラム

1 事業概要

1-1 概要

本プログラムは、静岡県内の3施設において、対話型鑑賞と制作ワークショップのセットを、一回ずつ実施する。

対話型鑑賞では、ファシリテーターの進行のもと、参加者が自由に作品について意見を共有し、絵画制作ワークショップでは、作家とともに自由に作品を制作する。

1-2 目的

本プログラムにおける対話型鑑賞と絵画制作ワークショップが、高齢者の日常を豊かにする一助になるのではないかと仮説に基づき、実証実験を通じて検証するのが目的である。

アート作品の鑑賞を通じて感覚や記憶を言葉にすることで、高齢者が自身の気持ちや思いを表現する手助けを行うこと、また絵画制作を通じて自己表現や創造性を発揮する機会とし、高齢者の表現活動に寄与することを目指すプログラムを実施する。

また参加した高齢者、高齢者施設からの反応や感想をもとに課題点を見出し、より良いプログラムの作成に寄与する検証を行う。

1-3 対象施設

- 医療法人 友愛会グループ（静岡県沼津市）
通所リハビリテーション『デイケアさとやま』
住宅型有料老人ホーム『聖人の家 風のガーデン』
- デイサービス すまいるほーむ（静岡県沼津市）
- 医療法人社団 綾和会 掛川東病院（静岡県掛川市）
『介護老人保健施設 桔梗の丘』

1-4 協力作家プロフィール 本田 照男（ほんだ・てるお）



- 1946 静岡県賀茂郡西伊豆町に生まれる。
- 1969 23歳で沼津市内に「焼肉ペテコ本田苑」を開業後、2013年の閉店まで43年間焼肉店を営業。
- 1987 心臓を患う。人工弁・人工血管をうめ込む手術を行う。
- 2006 絵を描くことにまったく関心がなかったが、60歳のある日、ラジオからながれる「マタイ受難曲」を聞いて突如絵を描き始める。描き方はまったくの独学で、色彩あふれる抽象画や自然の景色などさまざまな題材を描き、焼肉店だった自宅を「ギャラリーきくらげ」として、毎日絵の制作に没頭。
- 2017 作品数は膨大で、ギャラリーや美術館などで個展も数多く開催し始める。
- 2022 第44回沼津市芸術祭美術展（水彩・版画部門）で芸術祭賞を受賞。ウェブ版美術手帖《榊野展正連載「アウトサイドの隣人たち」第53回自己救済としての表現》掲載。NHK Eテレ「no art, no life」、書籍「超老芸術」（2023）で全国に紹介。



2

対話型鑑賞

2-1

対話型鑑賞とは

対話型鑑賞は、ファシリテーターが鑑賞者との対話を深めながら行う美術鑑賞プログラムである。従来の美術鑑賞とは異なり、作品に関する知識や解説を一方的に聞くのではなく、鑑賞者自身の言葉で作品と向き合い、感じたことや考えたことを共有することで、より能動的に作品を鑑賞する体験を提供する。

2-2

選定作品とその理由



- ・タイトル：無題
- ・ジャンル：絵画作品
- ・素材：ボールペン
- ・サイズ：H470 W570 (mm)
- ・制作年：2013年

作品1：富士山

静岡県民には親しみのある、富士山の作品。日本の象徴的なモチーフである富士山を色彩豊かに表現した作品を通じて、鑑賞者の感覚的な反応を引き出し、個人的な体験と作品を結びつけることを目的としている。



- ・タイトル：無題
- ・ジャンル：絵画作品
- ・素材：アクリルガッシュ
- ・サイズ：H630 W480 (mm)
- ・制作年：2023年12月25日

作品2：まる・さんかく・しかく
クリスマスの夜1日で描いた作品で、亡くなった奥様の肖像画の上に描いているというストーリー性のある抽象画。シンプルな形(○△□)が組み合わせさせた作品を通して、形や色に対する感覚的な反応を促し、視覚的に感じたことを自由に表現してもらうとともに、色や形が何かを思い起こさせる感覚を大切に、個々の反応を尊重することを目的としている。

感覚的な反応を促し、視覚的に感じたことを自由に表現してもらうとともに、色や形が何かを思い起こさせる感覚を大切に、個々の反応を尊重することを目的としている。



- ・タイトル：無題
- ・ジャンル：絵画作品
- ・素材：アクリルガッシュ
- ・サイズ：H460 W300 (mm)
- ・制作年：2009年

作品3：色の連続

色の塗り方や配置に注目した作品。色の変化や配置が感覚的に引き起こす印象に焦点を当てている。

2-3

実施の流れ

事前準備

- ・現地到着後、施設職員と本日の内容や出欠席の確認を行う。
- ・作品の搬入と会場のセッティングを行う。
- ・施設スタッフの補助の元、参加者の移動を開始する。

受付

- ・参加者が席へ着席次第、参加の確認を行う。
- ・参加者のニックネームを養生テープに記入し、コミュニケーションツールとして用いる。

導入

- ・作品を鑑賞するうえでの注意事項として、参加者と以下の共有を行う。
 - 1 まず最初に作品をじっくり鑑賞すること
 - 2 作品について自由に思ったことを発言すること
 - 3 参加者同士の発言を否定しないこと
- ・作者の名前、プロフィールを共有する。

対話型鑑賞中

- ・ファシリテーターの進行の元、作品について自由に意見交換を行う。
- ・ファシリテーターは、参加者の発言を促し、対話を深める。
- ・運営スタッフは、ファシリテーターと参加者の発言を記録し、実施中の記録写真を撮影する。

振り返り

- ・作家と作品についてのエピソードを共有する。
- ・作品の作者がどんな思いで制作したのかを共有する。
- ・参加者と本日の感想や気づきを共有する。

撤収作業

- ・施設スタッフと後日感想の調査を依頼し、連絡事項を済ませる。
- ・作品の搬出と現場復帰を済ませ、撤収。

準備物：作品3点、養生テープ、ペン、資料など。

2-4 各施設での実績報告

■ 医療法人 友愛会グループ（静岡県沼津市）
通所リハビリテーション『デイケアさとやま』
住宅型有料老人ホーム『聖人の家 風のガーデン』

【実施日時】 2025/1/20 14:00-15:00
【実施場所】 風のガーデン 1階デイルーム
【参加者】 8名

【参加者について】

ニックネーム	性別	年齢	介護度	発語やコミュニケーションの特徴・運営スタッフへの注意点
風のガーデン				
1 Aさん	女性	86	介護1	現在、生活全般の動作は自立されているが、歩行時のふらつきが少しある。認知機能の低下はなく、コミュニケーションにおける問題はない。
2 Bさん	男性	78	介護2	脳梗塞の影響で右半身に麻痺があり、生活の動作は左手のみで行っている。認知機能の低下はないが、病識が乏しく、危ない動作も頑張りすぎてしまう。
3 Cさん	女性	85	介護1	認知機能の低下はなく、コミュニケーションも問題はない。病気の影響で、片手不自由さはあるものの、生活はなんでも自分で行い、自立されている。
4 Dさん	女性	94	介護4	股関節の変形があり、日常生活では歩行器を使用して生活をされている。難聴があり、大きな声での会話が必要だが、理解力に問題はないため、会話での意思疎通はできる。
デイケアさとやま				
5 Eさん	女性	90	介護1	自宅で生活をされており、通所リハビリに通われている。少し認知機能の低下があり忘れっぽいが、とても穏やかで、明るく、お話しすることが大好き。
6 Fさん	男性	95	介護1	自宅から通所リハビリに通われている。自分から話すことは少ないが、穏やかで、マイペース。認知機能もしっかりされており、自宅では読書が毎日の日課になっている。
7 Gさん	女性	90	介護1	自宅では杖をついて歩行し、生活されている。少し認知機能が低下してきているが、協調性があり、周囲の方々とお話することが通所リハビリでの楽しみとなっている。
8 Hさん	女性	85	介護1	認知機能の低下に伴い、記憶力が低下してきており、昨日のことも覚えていないことが多い。自分からの発言はほとんどないが、問いかけに対しては問題なく返答することができる。



【対話・やり取りの記録】 ファシリテータ：板野 泉

発言者	コメント
板野	自己紹介 導入（フリップを用いて今日のプログラムについて共有）
Eさん	富士山の作品を鑑賞 わけがわからない。いろんな配色がされている。きれいだな、私も大井川の近くに住んでいました。
Fさん	私も幼稚園、小学生のぐらいに描いたことがあるような作品だ。その時、12色の色鉛筆で描いた。右上のはお月様？。似た絵を描いたことがあるよ。
Gさん	富士山に見える。山の頂上付近の青色からそう見えた。
Hさん	すごいねー。富士山に見える。
Aさん	山登りが好きで数えきれないほどの山に登った。スイスの山にも登ったことがあるよ。

板野 この絵は富士山をモチーフにしたことの共有
全体的に首を縦に振ったり、なるほどと発言する反応が見られた。 つづく→



発言者	コメント
	まる・さんかく・しかくの作品を鑑賞
Eさん	何を描いているのか言えない。バラバラだけどまとまっている。楽しい感じ。1つの物語がある？
Fさん	何を描いているのかわからない。屋根の上から見ている、街並みに見える。四角形がたくさん描かれているところからそう見えた。
Gさん	戦争が起こっているような絵のイメージ。絵の中に人が描かれている？ 全部の家が壊れているように見える。ストーリーがあるように思える。
Dさん	四角だの丸だのいいと思う。赤色は元気がでる。
板野	この絵はクリスマスの夜1日で描いた作品で、亡くなった奥様の肖像画の上に描いているという、作品の背景について共有した。 少しびっくりしたような印象を見せたり、すこし悲しそうな表情を見せたり、全体的に背景を知った後と表情に変化が見られた。
	鑑賞後すぐの感想
Eさん	この中のこれが一番上手だっていえない。それぞれの作品の良さがある。
Gさん	(拍手をする)
Hさん	涙が出る。作品を見すぎて疲れた。楽しかった。



[参加者・施設職員感想]

1 Aさん	ご本人：「山登りをしていたから、富士山の絵が良かった。いろいろな話が聞けて良かった。」 スタッフ：他の参加者の話に耳を傾け、頷いて共感している様子が印象的でした。ニコニコ笑顔で楽しそうに参加されていました。	2 Bさん	ご本人：「東京に行くのと美術館によく行っていたよ。絵は好きだから、楽しかったよ。自分と近い年くらいの人がいい絵を描くなど驚いた。」 スタッフ：普段は寡黙な方ですが、絵の感想を饒舌に話されていました。2枚目の絵を家の屋根と表現したのには感心しました。
3 Cさん	ご本人：「普段ない経験をさせてもらい、良い刺激になりました。あまり関わりの無い方の意見を聞いて新鮮でした。心やすらかになりました。」 スタッフ：多くの意見を出されていました。絵やクラシック等の知識があり、様々な視点でお話されていました。作者の意図を考察したり、他の方の意見に意見したりすることが出来ていました。	4 Dさん	ご本人：「このような機会が度々あるといい。年寄りたちを若返らせる効果があった。忘れていたことを思い出させてくれた。どこかで隠していた自分の想いを発表することができて嬉しかった。このような場を、ありがとうございます。」 スタッフ：宇宙や元素等、本人の持つ独特な考えを生かした発言をされていました。耳が遠く半分程度しか聞き取れなかったとのことですが、本人なりに楽しんでいる様子が伺えました。
5 Eさん	ご本人：「色々な人の意見が聞けて楽しかった。絵を見ることは好きなので、また見たいと思った。」 スタッフ：絵を見た後、自発的に夫の昔の話をしてくれましたが、自発的な話は利用中少ない為、新鮮でした。	6 Fさん	ご本人：「30年前の東京に行った時の美術館を思い出した。また絵を見たくなった。」 スタッフ：絵を見て自身の気持ちや生い立ちをすらすら話す姿は利用時に自身のことを話すことが少ないため、驚きもありました。
7 Gさん	ご本人：「楽しかった。とにかく楽しかった。絵はいいね！頑張らないとなつて思った。」 スタッフ：最近少し元気がなかったので、楽しそうにしている姿は久々に見ました。利用中にはない感情の動きを感じました。	8 Hさん	ご本人：「絵はよくわからないけど、楽しかった。」 スタッフ：利用中は受動的で、何事にもあまり関心を示さないタイプだが、興味を持って参加し、関心を示す姿を見て、こんな一面もあるのかと思いました。

※この他1名参加者あり。開始すぐに体調不良により退室

[施設管理者・職員の感想]

対話型鑑賞は初めての経験でしたが、普段受け身な利用者様や認知機能が低下し色々なことに興味薄れてしまっている利用者様でも、積極的に自分の意見や考えを発信されており、スタッフとしては驚きとともに、皆様の本来の姿を見ることができたと感じ、嬉しくなりました。また、同じ1枚の絵画でも、見る人によって感じ方も異なり、それが参加された皆様の今までの経験に基づいていることも印象的でした。日々対面するスタッフとして、そういった背景の上に今の皆さんがいるということをお忘れはいけないなと思いました。





【対話・やり取りの記録】

ファシリテータ：中野 佳子

発言者 コメント

中野 自己紹介
導入（フリップを用いて今日のプログラムについて共有）

富士山の作品を鑑賞

まずは1分じっくりゆっくり作品を眺めてみてください

Aさん へー、楽しい絵。いろんな色。まざっているのが何とも
言えない。

(指さす) (この辺の) かたちが (いいね)。

Iさん みやすいね 素敵な絵ですね。富士山みたい。

中野 どの辺が?

Cさん てっぺん。全体的。

中野 Cさんが「てっぺんあたりが富士山に見える」って言う
てくれたけどどうですか?

Cさん 富士山かと思った (どのへん?) 上のほうからこの辺。
模様がね、顔とね、しっぽ。つながっている。なか
な一体化するのは大変。(どこ?) 中のへん。顔のね、
顔に見えた。(目はどこ) 目を探してた。探したって
いうとおかしいけど、目がないと。口がさ、中間って
いうと富士山だけど、下が目に見えた。これがね。こ
ちから見ると。おかしいけど、どうもそこらへんが目
に見えた。

中野 全体は富士山だけどその中に生き物が見えるんですね。

Dさん 目が光ってる。それも情景のひとつ。見ているうちに絵
が違って見えてきた。

中野 10分くらい見ていたら、だんだん絵が違って見えてきた
と教えてくれました。富士山に登ったことがありますか?

Aさん 残念ながら登っていない。

Bさん えらかった。中学だった。とにかくえらい (大変)。

Hさん いろいろの心のひだが斜面に描かれている。誰の気持
ちをあらわしたものでしょうか。

中野 どこを見て心のひだを感じましたか?

Hさん そりゃ地面の中から突き破って出てくる (何が) そりゃ
きまつてるじゃん。宝物に決まつてるじゃん。(どれが)
宝物は人に教えるものではない。

Cさん 噴火してね、それで岩石、岩石を塗ったの?私は岩石
だと思った。全部塗ったの?

中野 なるほど。岩石だと歩くのが大変だと感じたんですね。

Bさん 登ったことあるよ。たいへんというよりここが(富士山か)
というその瞬間がね。あっちもこっちも、これが富士山
のあれか。というのを一応見てきました。山だけを見る
のではなくて、これも山の一部か。というね。あっちを
見たりこっちを見たり。

Kさん ありません。登れない。(手を額に) こうやって見るだけ。
中野 JさんもGさんも登ったことありますか?

Jさん 突破したことあるよ。たいへんでしたね。やったー! と。

Gさん 登りました。高校生の時。

Cさん 中2の時、8合目くらいからロープで引きずりあげられ
た(笑)。

Bさん 間違いはない。えらいところ登ってきたから みんなね。

【参加者について】

ニックネーム	性別	年齢	介護度	発言やコミュニケーションの特徴・ 運営スタッフへの注意点
1 Aさん	女性	90	介護2	認知症の影響があり、短期記憶が難しいです。何度も同じお話をされますが、同じ話でも会話を楽しむことができます。杖を使用して歩行され、施設内を自由に過ごされています。
2 Bさん	女性	88	介護3	他の利用者との会話を楽しまれます。冗談を言い、相手の笑顔を引き出します。時々帰宅願望があるため、安心して過ごせるよう見守りが必要です。
3 Cさん	女性	87	介護3	他の利用者との会話を楽しまれている様子が見られます。協調性があり他者との関わりが上手く、人から好かれます。サポートがあるとより安心して活動に参加することができます。
4 Dさん	女性	89	介護4	世話好きで、人見知りなく、他の利用者との会話を楽しまれている様子が見られます。時々帰宅願望があり、安心して過ごせるよう見守りが必要です。
5 Eさん	女性	92	介護3	意欲や体力が低下しており、日中もウトウト眠られています。会話の際には少し時間をかけることで、思いを話すことができます。
6 Fさん	女性	87	介護3	寡黙で静かに生活されていますが、リハビリは積極的に行われ努力家です。コミュニケーションには時間がかかるため、ゆっくりとした関わりが望ましいです。編み物が好きで、手を動かすことに親しみを感じています。
7 Gさん	女性	86	介護3	穏やかに話をされ、ゆったりとしたペースでの対話が適している。帰宅願望のある利用者の方へ声をかけてくれる様子があります。
8 Hさん	女性	84	介護4	認知症の影響もあり、気分によって会話の流れが変わることがありますが、ご自身の考えをしっかり持たれています。興味のある話題になると活発に発言されます。
9 Iさん	女性	97	介護5	失語症があるため、言葉が出にくいことがありますが、適切なサポートやきっかけがあると、言葉を引き出すことができます。
10 Jさん	女性	85	介護1	遠慮がちで、自分の思いは積極的に伝えることはありませんが、穏やかな性格で、さまざまな活動に前向きに取り組まれます。
11 Kさん	女性	84	介護4	自分の気持ちを相手を思いやりながら伝えられます。穏やかな性格で、日々の生活を楽しんでいる様子があります。

発言者 コメント

まる・さんかく・しかくの作品を鑑賞

- H さん 何が描いてあるのか分からない。四角いのとか、いろんな色を付けてあるのはわかる。四角いのとかまるいのとか、何を描いてあるのか分からない。
- I さん なんか？ なんて？ ハハハハハ…
(問いかげへのうなずきが多く、近づきたいしぐさや、言葉を発したい様子。)
- K さん わからないけど、カラフルな色が分かりますけど、意味があるのか分かりません。(描いた人の気持ち?) と思います。描いた方は、赤や黄色や(いろいろな色を使ってあるから)豊かな人が描いたと思います。
- 中野 何か作者に意味があって描いているんじゃないかと思ってくれたんですね。作者の気持ちに想いを馳せてくれたんですね。
- K さん (作品の裏話を聞いて) 夫婦愛。やさしい。遠くから見ると美しい。この絵は飾ってくれるの?美しい絵を見て心の栄養になりました。ありがとう。
- H さん 月。お月さま。まるいのがいいよ。(施設スタッフ:「Hさんはまるいのが好きだからね」)
- E さん (基本眠っておられたが、声をかけると目をうっすらと開けて絵を見ていた)



【参加者感想】

1 A さん	活動後にご本人より感想を聞きました。「楽しくお話を聞くことができよかった。やっぱり富士山の話ができたのがよかった。」と話され、富士山の話が印象に残ったようです。	2 B さん	活動後にご本人より感想を聞きました。「行ったことのない場所に行ったような気持ちになった。次は何があるだろうって考えた。」と話され、新しい体験をしたような気持ちになり、良い思い出になったと感じられたようです。
3 C さん	活動後にご本人より感想を聞きました。「富士山の絵がとてもよかった。富士山に登ったことを思い出した。」と話され、富士山の絵を見て、中学時代に登った思い出がよみがえったとのこと。懐かしさを感じながら話されていました。	4 D さん	活動後にご本人より感想を聞きました。「みなよかった。どの絵と言われてもね、言いたいことも言えないけど。」と話され、どの作品も素晴らしく、印象に残るものが多かったようです。
5 E さん	活動中も傾眠で参加されていましたが、穏やかに過ごされ、声掛けによって作品をしっかりとしている様子が見られました。	6 F さん	感想を聞き取ることは出来ませんでした。絵画鑑賞には関心を示されていました。
7 G さん	活動後に感想を聞きました。「参加できてよかったよ。3点の絵をゆっくり見ることができて。色々に見えた。新しい絵を感じたね。」と話され、鑑賞を楽しまれた様子でした。	8 H さん	活動後に感想を聞きました。「芸術を描いたものが出てくると思ったけど、誰にでもわかるものを対象にしてくれたからとてもよかった。」と話され、親しみやすい作品を鑑賞できたことを喜ばれ、昔のレース編みの思い出も話してくださいました。
9 I さん	「よかった?」の問いに「よかったよ。」と言葉が聞かれた。絵画鑑賞を楽しんでいる様子が見られました。	10 J さん	活動後に感想を聞きました。「絵は難しい。私は山を塗ると緑一色になるから作るのはいいかな。」と笑顔が見られ、絵を描くことは難しいと感じつつも、とても楽しんでいました。
11 K さん	活動後に感想を聞きました。「絵は難しいけど心の栄養になる。今回参加して心に栄養を頂いた。」と話され、芸術活動を通じて、心が豊かになったと感じておられました。		

【施設管理者・職員の感想】

対話型鑑賞では、一つの絵画から利用者様が感じた思いが少しずつ引き出されて、膨らんでいく様子に驚きを感じました。その中でも昔の思い出は、他の参加者と共に回想し、共感し、笑い、穏やかな時間が流れました。「絵画は難しい。でも楽しかった。」と語り合ったことを満足した表情で話される様子から、今回のプログラムは日常を豊かにする一助になったのだと感じました。





[参加者について]

ニックネーム	性別	年齢	介護度	発語やコミュニケーションの特徴・運営スタッフへの注意点
1 Cさん	女性	90	介護2	お店の女将さんを長年されていてとても社交的。その日によって体調や気分が波がある。看板犬に子守歌を歌って寝かしつけるのが得意。
2 Kさん	女性	93	介護1	何事に対してもマイペース。あまり他人に関心を持たない。興味が無いことにはかかわろうとしない。好きなことには夢中で取り組む。読書が大好き。
3 Yさん	男性	86	介護2	地域のお祭りなどで中心的な役割を務めてきていて、とても社交的。新聞をよく読み世界情勢や日本の政治に関心が強い。
4 Iさん	女性	86	支援1	カラオケや社交ダンス等が趣味で大変社交的。塗り絵も丁寧にされる。新しいことに挑戦するのが好き。口調は柔らかいが、ストレートにモノ申す。
5 Mさん	女性	95	支援2	人と話すのが大好き。
6 Tさん	女性	92	介護1	初対面の人に対して気おくれすることがある。あまり人の話を聞かず、照れ隠しに悪ふざけをしてしまうところがある。想像力豊かで塗り絵に必ず物語を添える。
7 Sさん	男性	85	介護1	現役の詩吟の先生で、カラオケの歌声もすばらしい。まじめな性格だが、ユーモアもあり気持ちが乗ってくると踊りを披露してくれることがある。
8 Oさん	女性	85	自立	30年以上聾学校の教師を勤めた。地域の老人会や老人の見守り活動に積極的にかかわってきた。夫は美術教師で長女も美大卒で本人も絵はとても好き。日本画を描いていた時期もある。
9 Aさん	男性	91	介護5	幼稚園の園長先生を長年されていて、社交的。その日によって体調に波があり傾眠が強いことも多いが、元気な時にはサッカーや幼稚園の話をよくしてくれる。

【対話・やり取りの記録】

ファシリテータ：中野 佳子

発言者 コメント

中野 みなさんに自己紹介をおねがいします

- Cちゃん Cちゃんとよばれていました。一生女将です。
- Mちゃん Mちゃんです。(鉄工所を経営。ご主人と)ふたりで。(生まれ年は)歳が分かっちゃう。
- Sさん Sさんです。ありがとうございます。(現役の詩吟の先生でカラオケも得意)
- Aさん 幼稚園の先生。(サッカーのプロを発掘した)サッカーのプロだよ。
- Oさん Oちゃんと名乗ったのははじめて。茨城県のおいもです。サツマイモのOちゃん。田舎で食べるものと言ったらサツマイモばかり。戦後、終戦で。茨城から東京の大学へ行った時、おいもの茨城か。といわれた。
- Yちゃん Yちゃんて言われていた。○団地 (に住んでいた)。生まれは小田原。自治会の環境 (FM?) 長を10年間やっていた。
- Iさん むかしからIちゃんって呼ばれてたんだよ。
- Tさん ななしのごんべ。
- Kさん 看護師。(得意なのは) 静脈注射。
- Trちゃん スタッフのTrちゃんです。

つづく→



発言者	コメント	発言者	コメント
	富士山の作品を鑑賞		まる・さんかく・しかくの作品を鑑賞
Iさん	ちょっと見たときあれ、富士山の形していると思った。いろいろな色のいろんな形に見える。	中野	1分くらいじっくり見てみましょう。
中野	いま、ちらほら「きれい」とか「富士山」とかそんな言葉が聞こえたけどどうですか？	Tさん	きれいでいいじゃない。色合いはいいね。でも、くどすぎるね。
Tさん	形は富士山だけど、いろんな色がありすぎてくどすぎる	Yちゃん	防犯カメラ。これ。そうみえた。(家には)ついてないけどね。団地にけっこう(ついで)。
中野	なるほど。そしたらTさんがいつも見ている富士山と違うのかな？	Mちゃん	これじゃちょっと多いような感じ。住みたくない。
Tさん	なにあれ。形はまあまあだけど、あんまりいろいろなものを…全体。ぐちゃぐちゃすぎる。一色でもいいくらい。ああいうの嫌い私。(富士山には)見えないよ!きもちわるい。わざわざそんなにしなくても。あんなにぐちゃぐちゃ気持ち悪い。	Aさん	色の具合を何のために描いたのか聞きたいですね。好きとか嫌いじゃない。「なんで?」しか思わない。
中野	さっきMちゃんはキレイって言ってたけどどう？	中野	なんでこんな色々な色を使っているんな形の絵を描いたんだらうって作家の意図に考えが及んだんですね。
Kさん	富士山に見えないこともないね。(どのへん?)頂上。泣いているよ。こんな山を描いたって泣いているじゃない。	Iさん	思ったんだけど、この辺に三角形が多いね。子どもにね、三角定規があるから。(数える)5個もある。(数える)6個。だから子どもに見せてさ。三角定規がいくつあるか。
Yちゃん	富士山に見えるけどね。(どこ?)全体だね。この辺がイカに見える。	Sさん	いいねえ。
Iさん	この辺がネッカチーフに見える。	中野	すごくよく見てくれてる。とても優しい表情で見てください。
中野	いまIちゃんが巻いてらっしゃるネッカチーフに見えるって言うてくれました。Yさんはここがイカだって教えてくれました。	六車さん	Sさんはどの形がすきな?
Sさん	(好きですか)きらいじゃないですね(まあまあ?)そうですね。富士山の感じしますね。細かいのは別としてね。	Sさん	わかんないねー。全体がそうね。いいと思う。
Yちゃん	宝永山。噴火のね。お寿司のネタに見える。これがイカだね。スジコ、これがマグロ、マグロの赤身に見える。	中野	わからないけれど、今作品を好きになってくれたんですね。Kさんどうですか?気づいたこととかありますか?
中野	この丸いの何に見えるます?	Kさん	ここに四角があるね。
Iさん	夜でしょ。暗いから。それでお月さんを描いた。でも色は自分の好きな色を描いた。子どもが好きな色。それとほらここに、太陽系。宇宙のね。	スタッフ	(赤いところが)トイレスリッパに見える。
中野	Kさんはどう見えますか?	Cちゃん	人間に見える(どこ?)そう言われるとちょっとわからない。(この辺が)顔があって体があって。
Kさん	あれ(宝永山のところ)風車!(風車のところは)好き。	Tさん	あそこ(角)から計算していく。前にこういうのがあった。
Cちゃん	わかんない。ぜんぜんわかんない。ブルー。わかんないけど。	スタッフ	前に「この形を探してください」というのをやったんです。
Mちゃん	これは御殿場側から見た富士山だと思う。	中野	この白いところが顔で体をクキクキって曲げてるように見えると教えてくれました。
中野	(どうして?)	Yちゃん	Yちゃん、また美味しそうなのありますか?
Mちゃん	沼津からだとは見えない。上だけしか見えないでしょ。(御殿場に小さいころ住んでいたが)裾野まで見えていた。裾野が見えているから、これは御殿場で描いた(富士山ではないか)。	Yちゃん	ないない。
Yちゃん	光が反射しているんじゃないの。当たって反射した。	Oさん	なんで描いたのだろうか。防犯カメラで監視しているような、こんなゴタゴタした町には住みたくない。にぎやかすぎる町。遠くから、上から(見ている)。先に、乱雑な町だなと思ったら、防犯カメラの話が出て、住みたくないなど思った。乱雑すぎる。(しかも防犯カメラ)そうです。
中野	ありがとうございます。Iちゃんはこれが月で宇宙ではないかと話してくれた。Yちゃんは光があたって反射すると。いろんな見方を教えてくれました。	中野	Oちゃんは上から見た視点を持って見てくれて、賑やかすぎるねと思ったんですね。
Yちゃん	楽しいから疲れないよ。	Yちゃん	答えてなんだろう
六車さん	わたしはあの丸いのはバームクーヘンに見えた。	Oさん	答えはないんじゃない?
(管理者)			色の連続の作品を鑑賞
		Aさん	何のために色のやつを作ったのか聞きたいね。(聞ければ)これはこうだからといえると思う。その前に(説明を)先ず聞きたい。言いようがないもん。

最後に3作品を並べ、皆で鑑賞する

[参加者・施設職員感想]

<p>1 Cさん</p>	<p>ご本人：帰りの送迎時には、今回のイベントのことは覚えていませんでした。 スタッフ：自分の関心のないことにはあまりかかわろうとしない方ですが、特にまる・さんかく・しかくの絵の下の方に「人の形が見える」と注目されたのは面白いと思いました。</p>	<p>2 Kさん</p>	<p>ご本人：帰りの送迎時に感想をお聞きしましたが、既に、イベントのことは覚えていませんでした。 スタッフ：もともと自分の関心のないものに対してはあまりかかわらない方なので、今回も、作品に興味を持てなかったのかもしれない。</p>
<p>3 Yさん</p>	<p>ご本人：帰りの送迎時に感想をお聞きしたところ、「とても面白かったよ。やってよかった」と笑っていました。また、「あの絵を描いた人が来て、なぜあの絵を描いたのか、どんな意味があるのか説明してくれるとよかったな」ともおっしゃっていました。 スタッフ：普段はあまり絵に関心を持たれないので、富士山の絵には、「この光が反射して…」と言ったり、まる・さんかく・しかくの絵には、下方の〇に「監視カメラが見てる」と注目されたりして、とても積極的だったことに驚きました。</p>	<p>4 Iさん</p>	<p>ご本人：帰りの送迎時に感想をお聞きしたところ、「美術館で観るようなもっと有名な絵を鑑賞するのかと思っていたので、最初はがっかりした。ああいう絵を描く人がいるんだね。難しいけどいろいろな見方ができるんだなって思ったよ」とおっしゃっていました。 スタッフ：イベントの内容についてあまりうまく説明できていなかったで、誤解を生んでしまったのかもしれない。申し訳ありません。でも、もともと絵が好きなので、彼女なりに鑑賞を楽しんでいたように見えました。</p>
<p>5 Mさん</p>	<p>ご本人：帰りの送迎時に感想をお聞きしたところ、「面白かったよ。楽しかった」というお返事が帰ってきました。ご家族によると、その後も特に変化はないそうです。 スタッフ：特に富士山の絵について、「どこから見た富士山なのか」という点に注目されていたのは面白いと思いました。御殿場の出身なので、前に愛鷹山があつて途中でしか見えない富士山を70年以上も見続けてきた彼女にとって、富士山が裾まで描かれているのは、もしかしたら御殿場から見たのではないかと、と気になったのだと思います。</p>	<p>6 Tさん</p>	<p>ご本人：3日程たった後に、感想をお聞きしたところ、やはり、「富士山はごちゃごちゃ描くのやだね。だって富士山白くてきれいだもん」とおっしゃっていました。 スタッフ：対話型鑑賞会の時に、特に富士山の絵について、「汚い」と拒絶反応を見せたのは、毎朝お迎えの時に富士山を確認して「きれいだねー!」と感動する程、富士山が大好きだからなのではないかと思えます。彼女にとって最高の富士山は冬の真っ白な雪を抱いた富士山なので、それがいろいろな色に塗られているのが許し難かったのだと思います。</p>
<p>7 Sさん</p>	<p>ご本人：帰りの送迎に感想をお聞きしたところ、ご本人からは「よかったと思いますよ。面白かったです」というお返事が帰ってきました。 スタッフ：翌日の利用日、同居されている奥様から、「昨晩は、わけもなく怒り出して手が付けられませんでした」というお話がありました。 対話型鑑賞時に興奮して「なぜこの絵を描いたのかそれを知りたい」とおっしゃっていたのは、一生懸命わかってほしいけれどわからないということでの不安感があったのではないかと思います。認知症の進行が早いSさんは、普段もわからないこと、できないことがあると、とても不安を感じ、興奮してしまうのです。ファシリテーターに作品の背景を説明してもらって、「それならわかります。いい絵です」とおっしゃったのは、描いた理由がわかって安心したからでしょう。でも、心の中には不安や興奮状態は残っていて、夜ご自宅ですぐそれが奥様にむけて発せられたのだと思います。</p>	<p>8 Oさん</p>	<p>ご本人：その日の夜に感想を聞いたところ、「みんながそれぞれ違う見方をしているところが面白いな」と思った。まる・さんかく・しかくの絵は街を描いているように見えて、ごちゃごちゃしているのがなんかいやだなと思っていたら、Yちゃんが「監視カメラが見える」と言ったから、余計になんだか怖い気がした。でも、それを言ったら、「どうしてそう思うのか」と問われて、何だか責められているように感じて怖くなってしまった」とのことでした。 スタッフ：急に参加することになってしまい、申し訳ありません。私たちから見て、ファシリテーターの方は随分といろいろな意見を聞いてくださっていると感じていたのですが、彼女には「どうして?」という問いが詰問されているように思えたようです。どのような目的で今回のイベントを行うのか、事前にもっと説明していれば、もう少し誤解がない形になったのかもしれない。今回の作品制作のワークショップにも参加するとのことでした。</p>
<p>9 Aさん</p>	<p>ご本人：帰りの時間には、今回のイベントを覚えていませんでしたし、同居の奥様からも、その日に特に変化はなかったとのことでした。 スタッフ：当日傾眠が強かったのですが、特に、まる・さんかく・しかくの作品の時には目がぼったりと開いて、「いいね。好きだよ」とおっしゃっていたのが印象的でした。長年幼稚園の園長をされていたので、あの作品には子供たちの絵を観るような思いがあったのかもしれない。</p>		



[施設管理者・職員の感想]

イベント後、大きな変化は見られませんでした。参加者は普段の施設での対話の延長線上で鑑賞会に参加していました。そのため、率直な意見や発言が飛び交う場面もありました。

認知症の方にとって、自分の好きな風景が思いがけない色に染められていることは、受け入れがたい場合もあり、不安や不快感を感じることもあると改めて認識しました。しかし、それは一つの刺激であり、大きなきっかけで認知症が悪化したり、体調を崩したりすることはなく、ご自身の中で少しずつ納得されたり、リハビリされたりしていくため、全く問題はありませんでした。むしろ、様々な意見や見方があることを実感できたことが良かったと感じています。

また、イベント後には本田さんのギャラリーの名前「きくらげ」について話が盛り上がり、きくらげが生えている絵を描き合ったり、実際にきくらげを食べたりするなど、次回の本田さんとの交流が楽しみになるような展開がありました。

2-5 成果

< 作品選定 >

- ・1作品目には、静岡県民に親しみのある富士山の作品を選び、2作品目には、クリスマスの夜1日で描いた作品で、亡くなった奥様の肖像画の上に描いているという、ストーリー性のある抽象画を取り上げた。
- ・作品選定や提示する順番が良かったこともあり、それぞれの作品に対して多岐にわたる意見や感想が寄せられ、改めて作品の持つ力を実感した。

< プログラムの進行 >

- ・鑑賞会の開始前には、いずれの場合も20分程度の時間があり、名札を貼りながら参加者と談笑することで、自然な形でアイスブレイクができた。
- ・フリップを用いて「これから行うこと」「楽しむためのヒント」「アーティスト情報」などを事前に共有することで、参加者に安心感を与えることができ、表情やうなずきからもその様子が伺えた。

< 鑑賞者の反応 >

- ・3か所の施設は、それぞれ規模や成り立ち、入所者・通所者の背景が異なっていた。
- ・普段からアートを好んでいる方や、メモ帳を持参する勉強熱心な方など、もともと意欲的で認知力がしっかりしている方々は、模範的な回答が多かった。また、他の人の意見を受けて自身の考えを述べる場面も見られ、「対話」の空間が生まれていた。

- ・一方で、絵画を見慣れていない方や認知症のある方からは、ご自身の人生や趣味、体験の記憶を掘り起こし、作品と結びつけるような唯一無二の発言が飛び出した。
- ・肯定的な意見だけでなく、否定的な意見も率直に交わされ、同じ作品を見ても感じ方がそれぞれ異なることが、その場で共有された。
3か所とも、鑑賞会の中盤以降（もしくは鑑賞会后）に、作者の思いや人物像について考える発言が出た。
例：「この作品には何か物語があるんでしょうね」「この人は色々な色を使っているから心の豊かな人だと思う」「この人は、整理整頓ができない人だね」など。

< 演出の工夫 >

- ・イーゼルの使用で移動美術館のような雰囲気演出することで、参加者にとって楽しい場を作ることができた。
- ・布で作品を覆ったことで、鑑賞者が入退室時するタイミングによる不公平が生じず、良い進行ができた。

< 今後について >

- ・初回の様子が翌日の地元紙に掲載されたところ、それを見た対話型鑑賞会の実績がある障害者施設から、「利用者スタッフ向けに再度実施してほしい」との依頼があった。

2-6 課題点・改善点

< 課題 >

- ・1か所目で、直前に会場から不意にいなくなってしまった方がいた。事前情報として、その方は入所してまだ1か月程度で精神的に不安定な状況にあることがわかっていたため、より寄り添ったケアが必要だった。このような方にこそ、ぜひ参加してもらいたかった。
- ・途中で居眠りしたり、トイレに立ったりすることは自由であり、意見を言わなくても、作品を見てただそこにいるだけで十分である。その点を、もっと明確に伝えるべきだった。
- ・施設によっては、運営側に気を遣ってか、日頃の接し方の影響か、居眠りする利用者を起こしたり、発言を促したりする様子が見受けられた。しかし、そのような対応は不要であることを、事前にしっかり伝えておくべきだった。

< 改善 >

- ・より効果を実感していただくためにも、単発ではなく複数回の実施を推奨したい。
- ・今回、参加者は圧倒的に女性が多かったが、男性の比率が高かった施設では、男性陣が「なぜ、このような絵を描いたのか」とその理由を知りたがった（その理由を知りたがる背景があった）。それに対し、女性の参加者が「答えはないのでは？」と発言し、何気ない一言にハッとさせられた。性別による感じ方・考え方

の違いは確かに存在すると思われる。この点から、男性・女性の人数構成を工夫したり、男性のみ・女性のみで実施したりするなど、さまざまな実験的なチャレンジが可能であると感じた。

- ・事前打ち合わせの際、当日現場にいる施設職員向けに「対話型鑑賞とは」の理解を深めてもらう必要があった。そのため、趣旨に沿った対応をお願いするために、わかりやすい資料を持参することを検討したい。
- ・アーティスト（本田照男氏）のアトリエ訪問時、沢山の作品の中から実施作品を選ぶ機会を得たことは大変貴重で有意義であった。しかし、その際の選定過程や準備において、さらに効果的なフィードバックや協議の時間を設ける必要があった。
- ・事前打ち合わせ、本番ともに、議事録、記録写真などのバックアップ体制が万全であったため安心して本番に臨むことができた。しかし、次回はその体制をよりスムーズに運営できるよう、より迅速に対応できるよう工夫を凝らしたい。



3 絵画制作 ワークショップ

絵画制作ワークショップ概要

このワークショップでは、参加者が自由に形や色を使って表現することを目的としている。支持体としてキャンバス、画用紙、布を用意し、素材にはマッキーペンやクレヨン等を使用。作家と共に参加者が素材を使って作品を制作し、最後に完成した作品をシェアして感想を交換する。この活動を通じて、心の解放感や満足感を得るとともに、参加者同士のコミュニケーションを促進する。

実施の流れ

事前準備

- ・現地到着後、施設職員と本日の内容について確認と出欠席の確認を行う。
- ・備品の搬入と会場のセッティングを行う。
- ・施設職員の補助の元、参加者の移動を開始する。

受付

- ・参加者が席へ着席次第、参加の確認を行う。
- ・参加者のニックネームを養生テープに記入し、コミュニケーションツールとして用いる。

導入

- ・作家の自己紹介と本日のプログラムについての共有を行う。
- ・絵画制作するうえでの注意事項を以下に共有する。
 - 1 自由に思い思いに描くこと
 - 2 いろんな色や素材を変えて描くこと
 - 3 手が止まってしまったら、○△□を描き続けること

絵画制作中

- ・作家進行の元、参加者は絵を描き始める。
- ・施設のスタッフにサポートいただきながら、作業を進める。
- ・スタッフは、作家と参加者の発言を記録し、実施中の記録写真を撮影する。
- ・作業を始めて30分ほど時間が経過したのち、画面を向きを変え、再度制作を進める。

振り返り

- ・制作後、参加者全員で、一人ずつ制作した作品を見せ合い、作家と共に講評を行う。
- ・一人ずつ講評を行い、ご自身の好きな位置に、マークやサインを記入して作業を終える。

撤収作業

- ・施設スタッフと後日の感想の調査の指示を行い、連絡事項を済ませる。
- ・出来上がった作品の記録を撮影し、それぞれの作品は、参加者に持ち帰りいただく。
- ・備品の搬出と現場復帰を済ませ、撤収。

作家 本田照男氏の導入トークについて

- 本田氏が話した内容を以下に箇条書きで記録した。
- ・60歳から絵を描き始めた。それまでは描いたことがなかったし、上手く描けないので苦手であった。
 - ・沼津で焼肉店を経営してきた。
 - ・一緒に働いていた妻が生死を彷徨う事故に遭ったことをきっかけに、「自分のやりたいことを目指したい」と言われ、別れることを選んだ。
 - ・共に経営していた弟も急死して店を閉店した。辛い経験があった。
 - ・ラジオからバッハの「マタイ受難曲」が流れたときに、なぜかペンが走り、絵を描いた。それを美術に詳しい友人に見せると褒めてくれ、有名画家の画集を12冊送ってくれた。そこにはジョアン・ミロの画集があり、自分が描いたような丸や三角、四角で絵が描けることを知った。
 - ・その時から現在まで19年、毎日絵を描き続けている。
 - ・絵を描くこと、それを飾ることで幸せな気持ちになれる。
 - ・生きている間に少しでも多く絵を描きたい。
- ※施設によって若干内容が異なります。順不同。



準備物:キャンバス or 布 (人数分+予備)、マッキーペン、クレヨン、ポスカ、養生用新聞紙、見本作品3点、養生テープ、ペン、資料など

3-3 各施設での実績報告

■ 医療法人 友愛会グループ（静岡県沼津市）
 通所リハビリテーション『デイケアさとやま』
 住宅型有料老人ホーム『聖人の家 風のガーデン』

【実施日時】 2025/2/10 14:00-15:00
 【実施場所】 風のガーデン 1階デイルーム
 【参加者】 9名

【参加者について】

ニックネーム	性別	年齢	介護度	発語やコミュニケーションの特徴・運営スタッフへの注意点
風のガーデン				
1 Aさん	女性	86	介護1	現在、生活全般の動作は自立されているが、歩行時のふらつきが少しある。認知機能の低下はなく、コミュニケーションにおける問題はない。
2 Bさん	男性	78	介護2	脳梗塞の影響で右半身に麻痺があり、生活の動作は左手のみで行っている。認知機能の低下はないが、病識が乏しく、危ない動作も頑張りがすぎしてしまう。
3 Cさん	女性	85	介護1	認知機能の低下はなく、コミュニケーションも問題はない。病影の影響で、片手不自由さはあるものの、生活はなんでも自分で行い、自立されている。
4 Iさん	女性	94	介護3	脳梗塞の影響で右半身麻痺があり、室内の移動は車椅子でされている。元々絵を描くのが好きで、デイサービスなどで作った作品を自宅にも多く飾られている。
5 Jさん	女性	89	介護2	室内の移動は車椅子や歩行器で行っている。トイレなど日常生活の動作は手すりを使用して行っている。コミュニケーションにおいては、問題はなく、意思疎通ができる。
デイケアさとやま				
6 Eさん	女性	90	介護1	自宅で生活をされており、通所リハビリに通われている。少し認知機能の低下があり忘れっぽいが、とても穏やかで、明るく、お話することが大好きな方。
7 Fさん	男性	95	介護1	自宅から通所リハビリに通われている。自分から話すことは少ないが、穏やかで、マイペースな方。認知機能もしっかりされており、自宅では読書が毎日の日課になっている。
8 Gさん	女性	90	介護1	自宅では杖をついて歩行し、生活されている。少し認知機能が低下してきているが、協調性があり、周囲の方々とお話することが通所リハビリでの楽しみとなっている。
9 Hさん	女性	85	介護1	認知機能の低下に伴い、記憶力が低下してきており、昨日のことも覚えていないことが多い。自分からの発言はほとんどないが、問いかけに対しては問題なく返答することができる。



【対話・やり取りの記録】

対象者	コメントや様子
菊地（運営）	13:50 参加者移動と名札の作成。
本田さん	ワークショップについての説明。 自己紹介と自身の作品制作のコンセプトやモチベーションについて共有を行う。60歳まで絵を描いたことがないことや元々焼肉店を営んでいた半生について参加者は反応を示す。
Hさん・Bさん	頷く
本田さん	現在描いている絵の紹介を行う。山や川などの生まれ育った原風景を中心とした絵を描いている、炭で飯を作る様子なども細部に描かれている作品。
Fさん	「あーそうか! すごい」
Cさん	作家による説明について、頷いていた。
本田さん	「手が止まったら、丸三角四角を描き続けてみましょう」と書き方の共有を行う。
	14:15 - 作業開始 ペンの蓋が開けられなかったり、蓋が転がったり、スタッフのフォローがありつつ制作を開始する。 つづく→



対象者	コメントや様子
Gさん	最初は、どういうふうを描いたらいいのか、わからない様子を見せていたが、各々自分のペースで作業を始める。
Cさん	ペンの細い/太いを確認しながら、描く。 「こうやって描いてもいいの?」とスタッフに確認する。
職員	「塗りつぶしてもいいし、自由に描いてみて」
菊地	「手が止まってしまったら、画面を90度に回してみたり、上下回転してみてください」
本田さん	「どんどん、画面を埋めてみよう。自分のイメージする好きなもの、自由に描いてみましょう」
Iさん	「自分の好きなものが描けるかしら?」と質問。
Cさん	手がうまく動かない、「昔は足踏みオルガンをやっていた」と自身の話を交えながら描く。 「(こんな絵を描いていたら)私、精神科かかってくださいと言われる(笑)」と冗談まじりに話す。
Jさん	「疲れた、部屋に帰りたくなっちゃった」と途中退室
Iさん	「丸三角をかかきゃいけない? 何を描いたらいいの?」と質問。
Cさん	「将来高く売れるかも」と笑いながら話す。
職員	「夫婦(EさんFさん)の描く絵が似ている。仲がいいから」
Hさん	最初は、丸三角四角を使って木の絵を描く。制約がないとわかると、魚の絵を描き始める。
Gさん	「うまく描けないです」
本田さん	「いいですよ。童心にかえて絵を描いているように見えます」
Cさん	「(クレヨン)新しいのだから、使っているのかしら」と気にしていた。
Fさん	あまり会話をせず、黙々と絵を描く。
榊野	「画面を埋めるのがくどくなることを気にして、余白を作りながら、パターンを作られている」
Iさん	「ペンで描いてたけど、クレヨンで描いてみよう。でも、何を描いたらいいのかわからない」

対象者	コメントや様子
Cさん	「わからない」
職員	「完成ですか?」
Iさん	「やったことがないから、これでいいのかわからない」と左手で描かれていた。
Eさん	「お父さんの方が、綺麗じゃん」とFさんに声かけを行っていた
菊地	「Cさんは元々左ききなんですか?」
Cさん	右が使えなくなって途中で、左手にきりかえた、利き手変更の訓練があることを教えてくれた。

14:47- 講評

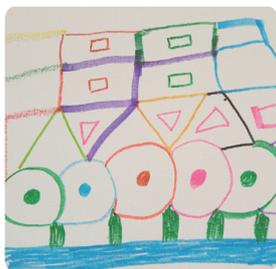
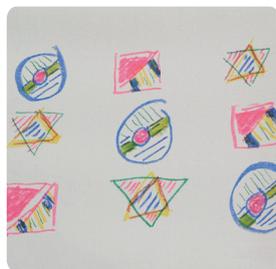
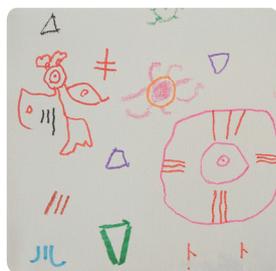
菊地	「描いた絵を見せ合えたらと思います」と共有。作業を各々終え始める。
本田さん	絵の向きについて、どこが安定しているか確認しながら、右下にサインを書くこと促す。
Cさん	「庭に見える梅を描いてみました」
Iさん	Cさんの描いた絵に「かわいいね」と言う
本田さん	絵を回転させながら、制作者と一緒にサインを書く位置を決める。
Gさん	自分の絵を見せた時、手で顔を隠して恥ずかしい反応を見せる。 「頭がこんななっちゃった。混乱しっちゃった。タコを描いた」
本田さん	「褒められたんだから、とても良い」と参加者を励ます。
Fさん	黙々と絵を描き続け、向きについても即断。「子供の頃、描いたことを思い出す」
Bさん	「何を描いたかわからない。ちゃんと絵を描くこと(精密画など)が好きじゃないから、こんな絵を描く方が好き」
Eさん	ご夫婦で似たパターンを描く。「真似たわけじゃないのよ、綺麗でしょ」と誇らしげ。
Hさん	講評中も描き続けていた。「丸三角四角を使って絵を描かないといけないと思ってた」 「自分で描いてて頭がおかしくなっちゃった」
Aさん	「初めてのことでわからなかった。でも、またやったら面白いかも」
Cさん	「精神分裂みたいじゃないかしら?楽しかったわ」
Eさん	「描くと楽しいね。こんなの何十年ぶりだけど。部屋に飾ってみたい。楽しいね」
本田さん	「皆さん是非、また絵を描いてみてください。また今回書いた絵を自分の部屋に飾ってください」

作業終了後、参加者全員各々描いた絵を持ち帰り、本日の絵画制作ワークショップを終えた。



[参加者・施設職員感想]

<p>1 Aさん</p>	<p>ご本人：どうしたらいいかわからないよ。やったことないからね。山ばかり登っていたよ。 スタッフ：周りのスタッフにアドバイスをもらいながら、思い思いにペンを走らせていました。自信がなさそうにされてましたが、作品をみんなに見せて拍手をもらおうと、嬉しそうな表情がみられました。</p>	<p>2 Bさん</p>	<p>ご本人：もっとみんなでやれるといいな。こういう絵を描くのは好きだよ。 スタッフ：手を真っ黒にされながら夢中で描いていました。力強いタッチで迫力のある作品ができていました。他の人の作品を見て頷いている様子が印象的でした。</p>
<p>3 Cさん</p>	<p>ご本人：楽しかったよ。色んな絵を描く人がいて面白いね。 スタッフ：自分の席から見える梅の花を書き込むなど、独自の発想で作品を作っていました。他の方の作品に自分なりの感想を言ったり、楽しんでいる様子が伺えました。</p>	<p>4 Iさん</p>	<p>ご本人：絵を描くのは好きだよ。もっと描く時間が欲しかったね。 スタッフ：丸や三角を使って木や建物などを描き、情景が浮かぶような作品を作りました。意欲的でみんなが書き終わってもペンを話さず、黙々と描いていました。</p>
<p>5 Jさん</p>	<p>ご本人：たまにはいいね。発想が面白いね。 スタッフ：最初はあまり乗り気じゃなかったが、ファシリテーターの話をよく聞かれており、作品作成にも熱心に取り組んでいました。途中で疲れてしまい退席するが、話しを聞くと楽しかったと話されました。</p>	<p>6 Eさん</p>	<p>ご本人：園児のような絵になっちゃったけど、楽しかった。娘に見せたらなんて言うか楽しみ。 スタッフ：デイケアでは基本的に受け身なので、自分で考えて色を変えたり、描くのを変えたりする能動的な姿勢が見れて驚きました。前回のことは忘れていました。</p>
<p>7 Fさん</p>	<p>ご本人：子供の頃に還った気がした。楽しかったから、またあれば参加したいと思う。 スタッフ：前回の対話型鑑賞のことは忘れていましたが、自分で考えながら活動することはいい刺激になったと思います。整理された絵はとてもFさんらしかったです。</p>	<p>8 Gさん</p>	<p>ご本人：自分のセンスがないから人には見せられない。絵心がないから、恥ずかしい。 スタッフ：前回の事は断片的に覚えていました。絵が苦手という意識があったのか、終了後は少しネガティブ感じがありました。ただ参加中の笑顔は多かった印象です。</p>
<p>9 Hさん</p>	<p>ご本人：褒められる出来ではなかったけど、楽しかった。また参加したい。家に飾りたいと思う。 スタッフ：前回の事は忘れており、今回のことも1時間後には忘れていました。ただ、やっている時はいつも以上に笑顔もあり、主体的に取り組まれていた印象です。</p>		



[施設管理者・職員の感想]

インクを手にしながら無心に絵を描く皆様の姿に、心を揺さぶられました。認知が進んだ方もおられましたが、絵にはそれぞれの感情や性格、幼少期の原風景が現れており、個性が輝いていました。私たちも子供の頃は写生大会などで絵を描く機会がありましたが、大人になるにつれて減ってしまったことを改めて感じました。皆様に定期的にこのような機会を提供できればと思っています。



【参加者について】

ニックネーム	性別	年齢	介護度	発語やコミュニケーションの特徴・運営スタッフへの注意点
1 Aさん	女性	90	介護2	認知症の影響があり、短期記憶が難しいです。何度も同じお話をされますが、同じ話でも会話を楽しむことができます。杖を使用して歩行され、施設内を自由に過ごされています。
2 Bさん	男性	88	介護3	他の利用者との会話を楽しまれます。冗談を言い、相手の笑顔を引き出します。時々帰宅願望があるため、安心して過ごせるよう見守りが必要です。
3 Cさん	女性	87	介護3	他の利用者との会話を楽しまれている様子が見られます。協調性があり他者との関わりが上手く、人から好かれます。サポートがあるとより安心して活動に参加することができます。
4 Dさん	女性	89	介護4	世話好きで、人見知りなく、他の利用者との会話を楽しまれている様子が見られます。時々帰宅願望があり、安心して過ごせるよう見守りが必要です。
5 Lさん	男性	83	介護3	周りの方と自らコミュニケーションをとることはありませんが、穏やかな性格で、作業活動やレクリエーションにお誘いすると笑顔で参加される様子が見られます。
6 Fさん	男性	87	介護3	寡黙で静かに生活されていますが、リハビリは積極的に行われ努力家です。コミュニケーションには時間がかかるため、ゆっくりとした関わりが望ましいです。編み物が好きで、手を動かすことに親しみを感じています。
7 Mさん	男性	89	介護4	リハビリや入浴等、面倒で参加することに拒否がありますが、職員からの声かけや手を振るなどの働きかけには笑顔で会話や反応を示されます。
8 Hさん	女性	84	介護4	認知症の影響もあり、気分によって会話の流れが変わることがあるが、ご自身の考えをしっかり持たれています。興味のある話題になると活発に発言されます。
9 Nさん	女性	85	介護3	筆を嗜んでいたため、習い事に行く帰宅願望があります。周りの方とコミュニケーションをとられる様子はありますが、職員からの声かけや働きかけには、にこやかにお話をしてくれます。
10 Jさん	女性	85	介護1	遠慮がちで、自分の思いは積極的に伝えることはありませんが、穏やかな性格で、さまざまな活動に前向きに取り組まれます。
11 Kさん	女性	84	介護4	自分の気持ちを相手を思いやりながら伝えられます。穏やかな性格で、日々の生活を楽しまれている様子があります。

【対話・やり取りの記録】

対象者 コメントや様子

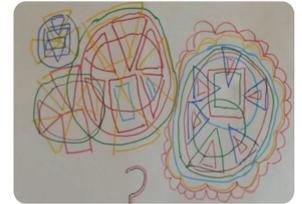
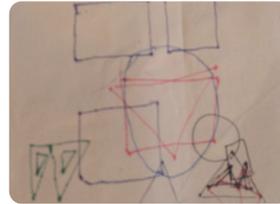
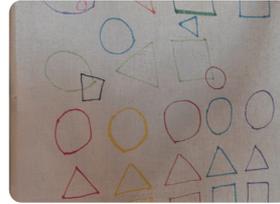
菊地（運営） 13:40- ワークショップの概要説明
 本田さん 60歳から絵を描き始めたことなどを話してからワークショップを開始する。
 Bさん 頷きながら、本田さんの話をよく聞いている反応を示す。小学校の頃、絵を描いていた思い出をスタッフと話す。
 Hさん 「見えにくい」と話し、絵を描くことに消極的な様子を示す。
 Lさん 設営準備の際に「参加するか」と聞くと拒否はしなかったのでスタッフが準備。
 Mさん 同上

14:00- 制作開始
 Kさん 「細かい絵だねー」と反応を示す。
 本田さん 最初に丸を描くことを促す。
 Cさん どこに描いたらいいのか、確認しながら描き始める。スタッフと会話を交えながら、絵を描き始める。
 Lさん 自ら色の違うペンを選びながら、能動的に絵を描き始める。
 Mさん 「丸三角をずっと描き続ける必要があるんですか?」と消極的な様子だったが、一つ丸を描き始めてから連なるように描き始める。
 Bさん 顔を描いているのか、「耳があったら、鼻と口が必要だね」と言葉を交える。
 Nさん 「丸三角四角だけじゃないとダメなの?」
 本田さん 「お花でも、魚でも自由に描いてみてください」
 Cさん 「どんな色を使ってもいいのかしら」という質問をして、ペンからクレヨンに変えて絵を描き始めていた。最初描き始めるときは躊躇していたが、施設職員とのやりとりから、絵を描き始める。
 オレンジは太陽の色だから、好き。ちょっと体を鍛えなれないといけないから、強い色がいい。茶色がいいわ
 14:15- 絵を上下入れ替えて描き始める。
 Bさん 「魚の絵を描いている、けど描くことが難しいね」
 本田さん Lさんの絵を皆に見せ、「このように描いてください」と共有する。
 Jさん 参加
 Bさん 家に帰って描くことをしてみたいと話す。なかなかこのように、描く機会がないと話す。
 Fさん 丸三角四角の大きさをあわせ、整列されて描かれていた。性格が現れることを共有する。
 Cさん 植木鉢の絵を描いた。ベランダにある鉢植えを参考に描いた。
 Jさん 手を大きく動かして、絵を楽しそうに描いていた。

14:30- 自分のサインを好きな位置に書く
 本田さん 一人一人にどこの位置が好きか、絵を回し確認しながらサインの記入を促す。
 Jさん 「サインを書く位置を選べない」と発言し本田さんと相談する。好きな色を決めながら、サインを記入。
 Hさん 名前の代わりにニコニコマークをスタッフに書いてもらう。

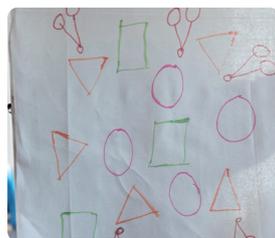
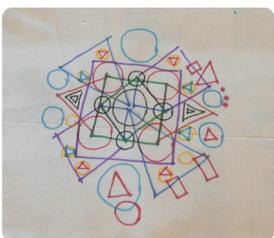
対象者 コメントや様子

- 本田さん Lさんの絵を皆に見せながら、サインをする位置を決めた。
- Nさん 3番目の位置がいいと意見を共有。
- 14:40- 順番に講評を行う
- Lさん 本田さんが対角線上に絵を描いてもらうことを促す。
- Kさん サインを書かれる際、最初にクエスチョンマークを書く。途中の絵を共有。模様のような花のような絵に対して本田さんが「この絵は意味はありますか?」と質問
- Kさんは「ありません」とキツパリと答える。
- Nさん 本田さんと会話「思い入れがありますか?」「別に何もありません」「思い出が詰まっていますか?」「そうかもしれない」と回答。
- Jさん 本田さんの講評に対して照れ笑いを見せる。
- Dさん 本田さんが「清楚な感じがする」と告げると「やだわー」と照れ笑いを見せていた。
- Cさん 「可愛い絵」という発言に対して、Dさんも反応を示す。「たい焼きを描いたの」とDさんとコミュニケーションを取られていた。
- Aさん 途中参加していたが、他の絵を積極的に見ていた。さくらんぼの絵を描いたようだ。
- 本田さん 今回はこれで終わりですが、この後、絵を書き足してもいいし、今後も絵を描いてみてください。



[参加者感想]

1 Aさん	冗談を交えながら楽しまれており、全体を通じて満足されている様子でした。	2 Bさん	作品を描いたことについて少し考える様子がありましたが、楽しんで取り組まれていました。
3 Cさん	久しぶりの絵を楽しみながら取り組まれ、色の美しさを印象に残されたようです。	4 Dさん	他の参加者と一緒に取り組むことに楽しさを感じておられました。
5 Lさん	満面の笑顔で「楽しかった」と話され、満足されている様子でした。	6 Fさん	具体的な感想は控えめでしたが、活動にはしっかりと参加されていました。
7 Mさん	制作に少し苦戦された様子もありましたが、最後まで取り組まれました。	8 Hさん	抽象的な作品は苦手だと話されていましたが、ご自身で作られた作品で大切にしている楽譜を包み、満足されている様子でした。
9 Nさん	ご自身の作品について、少し考えながらも「かわいい」と評価されていました。	10 Jさん	娘さんに作品を持ち帰ってもらい、ご家族に見せることを嬉しそうに話されていました。
11 Kさん	自由に表現することの楽しさを感じながら、「アートとはこういうもの」とご自身の考えを話されていました。		



[施設管理者・職員の感想]

はじめは布や色とりどりのペンを前に戸惑っていた利用者様もファンリテーターとともに○・△・□と自分の思う通りに描き始め、無表情な利用者様に笑顔がみられ、リラックスした表情が窺えました。認知症のある方が自由に描くことで回想し、楽しみを感じる事が刺激になり生活意欲の活性化につながるのではないかと思います。



【参加者について】

ニックネーム	性別	年齢	介護度	発語やコミュニケーションの特徴・運営スタッフへの注意点
1 Cさん	女性	90	介護2	お店の女将さんを長年されていてとても社交的。その日によって体調や気分が波がある。看板犬ゆずに子守歌を歌って寝かしつけるのが得意。
2 Kさん	女性	93	介護1	何事に対してもマイペース。あまり他人に関心を持たない。興味が無いことにはかかわろうとしない。好きなことには夢中で取り組む。読書が大好き
3 Yさん	男性	86	介護2	地域のお祭りなどで中心的な役割をつとめてきていて、とても社交的。新聞をよく読み、世界情勢や日本の政治に関心が強い。
4 Iさん	女性	86	支援1	カラオケや社交ダンス等が趣味で大変社交的。塗り絵も丁寧にされる。新しいことに挑戦するのが好き。口調は柔らかいが、ストレートにモノ申す。
5 Mさん	女性	95	支援2	人と話すのが大好き
6 Tさん	女性	92	介護1	初対面の人に対して気おくれすることがある。あまり人の話を聞かず、照れ隠しに悪ふざけをしてしまうところがある。想像力が豊かで塗り絵に必ず物語を添える。
7 Sさん	男性	85	介護1	現役の詩吟の先生で、カラオケの歌声もすばらしい。まじめな性格だが、ユーモアもあり気持ちが乗ってくると踊りを披露してくれることがある。
8 Oさん	女性	85	自立	30年以上聾学校の教師を勤めた。地域の老人会や老人の見守り活動に積極的にかかわってきた。夫は美術教師で長女も美大卒で本人も絵はとても好き。日本画を描いていた時期もある。
9 Aさん	男性	91	介護5	幼稚園の園長先生を長年されていて、社交的。その日によって体調に波があり傾眠が強いことも多いが、元気な時にはサッカーや幼稚園の話をよくしてくれる。

【対話・やり取りの記録】

発言者 コメントや様子

菊地（運営） 本田さんの絵をみせると前の方から「覚えてる」と反応が。

本田さん 自分の画家としてのいきさつを語る。
 僕たちは死んでいく。絵は残る。描いたものは残る。
 今日は一心不乱に描きませんか。必ず残ります。
 お孫さんとかに、飾ってもらえればあなたの事は絶対忘れられない。しょっちゅう思い出してくれるだろう。
 同じ色をなるべく使わないで派手派手に。まず丸を書いてください。

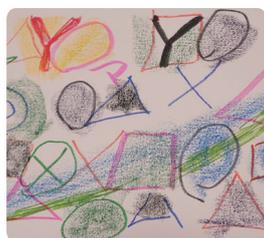
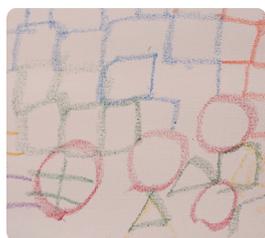
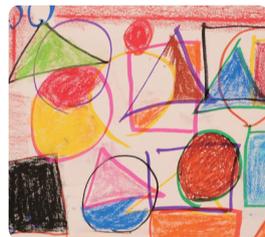
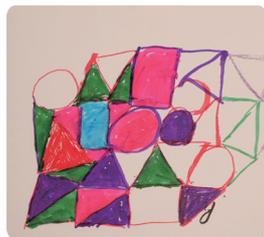
制作スタート

Iさん 積極的にどんどん描く。
 印象的な二重丸をいくつも描く。
 Aさん スタッフに促されるとクレヨンで四角を描き始める。
 「四角が好きなんだね」の問いかけに「うん」と答える。
 Oさん 太く大きく描く。
 Tさん 腕を組んで描かない。隣をじっと見ている。
 Kさん 積極的にどんどん描く。ほめられると嬉しそうに笑う。
 促しに応じ、クレヨンで塗り始める。
 Cさん ゆっくり描く。
 「色を変えても大丈夫だよ」には答えず、そのまま描きつづける。

つづく→



発言者	コメントや様子	発言者	コメントや様子
Cさん	形をつなげるように描いている。	Aさん	サインをする。記念撮影にはしっかりとカメラ目線。
Mさん	施設職員の導きで描き始める。	Oさん	(先生に向かって)「奥さんがいい絵だねっていつくれるよ。優しい絵だね」
Sさん	「いいじゃないですか」の声掛けにのり、どんどんと手が進んでゆく。	Yさん	サインはアルファベットでニックネームを大きく描く
菊地	「埋まってきて少し迷ったら、キャンバスをまわしてみてください」	Sさん	看板犬を描く(本田さん評「現代アートです。」) 作品の向きは、みんなで決めることに。Yさんの「それがいいね」で決定。
Yさん	キットパスで伸ばすように塗っている。	Cさん	まだ塗ってない形もあるが、向きを本田さんと決めてサインする。 「こっちが空白になっちゃったから」と向きを決める
Aさん	手がとまり、他の様子をみている。	Kさんと、Mさんは手が止まらない。描き続けている。	
Kさん	キットパスで大胆に大きく手を動かし塗っている。	Mさん	サインの場所をスタッフと吟味して決める。
Oさん	かわいい猫が登場。	Oさん	「国際的な感じがする」
Mさん	スタンドグラスのように、強く塗り分けている。	本田さん	「完璧に童心に帰っている。気持ちが明るくなります」 (Aさんの絵を見て)「優しい絵、無意識に描いた素晴らしい絵」
Cさん	「ぬってみたらどう」の六車さん(管理者)からの問いかけに再度手が動き出す。	Aさん	「へー」うなずく「私は優しくないよ」
Kさん	スタッフに、色や形を指示し、代わりに描いてもらう。	本田さん	「悪いことを自覚する善人でありたい」
本田さん	「月を描いて」	Aさん	「そうかなー」
Kさん	「薄くて見えない」「目が悪い」	本田さん	われわれはもうすぐ天国に行くわけですが、絵を描いて、楽しい感じで天国に行きましょう。 色は美しい。絵を描き続けてください。
六車さん	普段本しか読んでいない方も絵を描いています		
Sさん	看板犬の絵を楽しそうに描いている		
Iさん	絵が出来上がった様子		
本田さん	「気持ちが良かったくなる」		
Iさん	嬉しそうな笑顔。 ニコニコして本田さんの講評を聞いている。		
Yさん	皆にほめられる中、描き続ける。		
Kさん	絵が出来上がった様子。		
本田さん	「落ち着く向きは?」		
Kさん	「これ」しっかりと本田さんの話を聞いている。		
本田さん	1億円で売れるかもしれないからと、サインと日付を促す。 14:00- 各々サイン、作品とともに撮影をする。		



[参加者・施設職員感想]

<p>1 Cさん</p>	<p>ご本人：まだ模索して描いていた時に終わってしまったので、 ため。納得がいかない。 スタッフ：どう描けばいいのかわかり戸惑っていて、しばらくしてから描き始め、自分でどう描こうか考え、考え、描いていたところで時間になってしまったのが、本人としては納得できなかった様子。でも、普段は絵を描くことに興味もなく、むしろ抵抗がある方なので、一生懸命考えて描こうとしていた姿に驚きました。 ・題「未完なので題名なし」</p>	<p>2 Kさん</p> <p>ご本人：楽しかったかどうかわからない。描いた絵は、まあまあいい絵だと思う。 スタッフ：普段は自分から人とかわかることをせずに、一人で読書をしている方なので、今回一番夢中になって絵を描いていたことに驚きました。感想として、「楽しかったかどうかわからない」と言っていたのは、短期記憶に障害があるため、たぶん具体的なことを覚えていないのと、自分から積極的に感情表現をする人ではないので、いつも通りの反応だったと思う。でも実際に描いている時には、表情がかなり活き活きされていて、楽しそうでした。 ・題「△はきれい」</p>
<p>3 Yさん</p>	<p>ご本人：とても楽しかった。一年に何度か来てもらって、他の人（利用者さんたち）にも体験してもらえばいいと思う。本田さんが、みんなが描いた絵を見て、この人はこういう人だと言っていて、それがほとんど当たっていたのに驚いた。本田さんは、易者じゃないかと思う。 スタッフ：絵を描くのが楽しかったのもあるが、本田さん自身にとても興味を持たれたようでした。たぶん、ご本人もかなり破天荒な生き方をされてきたので、シンパシーを感じられたのかもしれない。また会いたかったです。 ・題「黄瀬川」 （育った黄瀬川での思い出を描いたのだとのこと）</p>	<p>4 Iさん</p> <p>ご本人：最初はピンとこなかった。本田さんのああいう服装も、なんだか変わった人だなと思った。でも、自由に描くと楽しいよ、と本田さんが言うてくれて、実際自分も自由に描いてみたら本当に楽しかったの、その通りだな、と思った。 スタッフ：普段は塗り絵をきっちりと塗られる方なので、あまり戸惑うことなく、白いキャンバスに自由に絵を描かれていて、それがとても楽しかったとおっしゃっていたのは、新しい発見でした。 ・題「お花畑」</p>
<p>5 Mさん</p>	<p>ご本人：何だかわからなかったけど、描いていて楽しかった。家に持って帰って、娘に、「子供が描いたみたいだね」って言われるかもしれない。でも、孫たちは、喜んでくれるかも。 スタッフ：最初はどう描けばいいのかわかり戸惑っていてなかなか始められなかったが、描き始めると夢中になっていたのいいなと思いました。普段はあまり絵を描く方ではないので、意外な一面が見られたのがよかったです。 ・題「すまいるに来て楽しい」 （すまいるほーむでの楽しい時間を描いたのだとのこと）</p>	<p>6 Tさん</p> <p>ご本人：ああいうのは嫌。好きじゃないもん。 スタッフ：絵を描くことは好きだし、必ず絵に物語をつけるなど、想像力／創造力豊かな方なので、今回のワークショップもきっと一番楽しんでくれるだろうと期待していたが、今回は難しかった。理由としては、初対面の本田さんが目の前に座られたことに気おくれしてしまったのと、今日は体調も気分もあまりすぐれなかったのがあると思われる。また、普段の言動からみると、抽象的な絵に対する抵抗感もあるように思われます。</p>
<p>7 Sさん</p>	<p>ご本人：自分の作品に名前を書けたことがよかった。最初は看板犬が下にいたのだけど、それが上になってしまって、でもそれでよかったと思う。描いていて楽しかった。 スタッフ：対話型鑑賞会では、抽象的な絵をどう理解しているのかわからず、少し興奮気味になってしまったので、今回もどのような反応を見せるのか心配しましたが、隣で、本田さんが促してくれたり、ほめてくれたり、スタッフが寄り添ってくれたことで、安心して絵を描くことを楽しめていたようでした。最初に本田さんがご自分の来歴や絵を描くことの意味をお話してくださったのも、ご本人の中で納得できてよかったのかもしれないです。 ・題「ゆずちゃん」 （大好きなゆずのことを描きたかったとのこと）</p>	<p>8 Oさん</p> <p>ご本人：私は観念的なので、ああいう絵はダメ。 本田さんに実際に、どうしてああいう絵を描き始めたのかその経緯を詳しく聞けたのがよかった。絵ではなくて、立体的な造形物だったら、自分としては楽しくできたかもしれないと思う。 スタッフ：本田さんの存在が、アーティストとして見出され、本田さんに活躍の場があることがすばらしいと感心していた。 ・題「無題」</p>
<p>9 Aさん</p>	<p>ご本人：楽しかった。楽しい絵が描けた。 スタッフ：最初は、「こういうのは好きじゃない」「やりたくない」と言って、描くことに抵抗を示されていたが、四角いクレヨンを手にとってもらったところ、興味を持たれたようで、□をいっぱい描き始めました。だんだんと眠気が出てきたようだったが、それでも描き続けていたのが印象的でした。本田さんのおっしゃるようにまさに本能のままに描かれていたのかもしれないです。 ・題「さあ、今日もがんばるぞ」</p>	



[施設管理者・職員の感想]

白いキャンバスに最初の色を入れることは、きっと皆さんにとってとても勇気のいることだったのではないかと思います。実際に、戸惑いや抵抗を感じたり、どのように描こうかと考えあぐねている様子が見られました。

スタッフからは、利用者さんたちの戸惑いを見て、あらかじめいくつかの○△□をキャンバスに描いておけば、まずはそこを好きな色で塗ってみることができ、そこからさらに○△□を描き足したり、好きなものを描いたり、スムーズに進められたのではないかと思います。しかし一方で、そうした戸惑いが、思索する時間として良い効果をもたらしたのではないかと、という意見もありました。

本田さんに促されながら、皆さんは戸惑いながらも少しずつ絵を描き始め、次第に夢中になり、最終的にはそれぞれが個性のある作品を作り上げることができました。それが、ご本人の満足感にもつながっていたように思います。

感想をお聞きした際には、皆さんそれぞれの作品にタイトルをつけていただきましたが、そのタイトルからも満足感や高揚感が感じられました。

3-4 成果

<プログラムの進行について>

- ・大まかな説明ののち、制作の前に本田さんの話が入ったことで、「ただ絵を描く時間」ではないことが伝わり、制作に影響を与えた。

絵の制作には、参加者にとって上手い / 下手という概念が前に出てしまい気後れする方も多し。準備の段階で「私は描けない」と口にする参加者も多かった。

そこで本田さんから紆余曲折あったという半生やラジオを聴いて絵を描き始めたといった非常にパーソナル、プライベートな話をしていただいたことで、絵の完成度よりも楽しんで描くことの大切さが伝わったように感じた。

- ・制作後には参加者全員の作品を一つずつ全員で鑑賞し、本田さんがコメントする流れとした。スタッフが作品を掲げる時には「こんな絵見せなくていいよ」と謙遜していた方も、本田さんが「心の綺麗さが表れている、素敵な絵だ」とコメントすると嬉しそうに「部屋に飾る」と笑顔を見せた。

<参加者の反応>

- ・普段は塗り絵などの元図があるものが多い使用が多いため、戸惑う姿も多く見られた。しかし本田さんの声かけによってまず丸を描くと、どんどん手が動き始めた。

- ・制作した作品は参加者それぞれの個性が強く表れた。キャンバス全体に勢いよく幾何学を散在させたり、タペストリーのように整列して描いたり、角の方から丁寧に埋めていったり、風景画を幾何学で表現したりと、それぞれの性格・趣味・原風景・経験が描かれるなど全てが唯一無二の作品となっていた。

- ・複数の施設にて認知症が進んでいる方にも参加していただいた。

普段から参加者を見守っている職員たちは、会話が難しかったり、感情の起伏が見られたりすることが多い参加者が熱心に取り組む姿に驚きの声を上げていた。徘徊なども多いため参加者リストに載っていなかったが、急遽当日参加して下さった参加者は、笑顔を浮かべながら勢いよく線を走らせ、時間いっぱい制作を楽しんでいた。

3-5 課題点・改善点

- ・制作ワークショップに使用したペンは、乾きが早く筆圧が弱くても使いやすいが、反面キャップが開けにくい。施設職員に補助していただくことで問題なく実施できたが、今後施設によってはそこまで職員の手を割けない場合もあるため、企画者側でも補助スタッフ人数を増やす必要がある。

- ・参加人数を絞ったことで施設によっては施設職員や参加者に手間が発生してしまった。

画材等を準備する必要があるため、いずれも施設側から事前に申請していただいた参加者名簿に則っての開催となった。しかし当日様子を見て参加されたいという方（予備の画材で対応）や、参加したくないのに同じ空間にいさせられてしまう利用者の姿もあった。

ただし予備の画材で対応できたことで施設側にとって予想外に積極的に制作に取り組む姿が見られたのは良かった。

- ・施設の状況や企画の意図をしっかりと伝えるためにも、事前の打ち合わせでは参加者をよく知っている担当職員に参加してもらうことが必須と感じた。



■ 医療法人 友愛会グループ（静岡県沼津市）
通所リハビリテーション『デイケアさとやま』
住宅型有料老人ホーム『聖人の家 風のガーデン』

今回の対話型鑑賞、絵画制作ワークショップを通じて、普段の関わりの中では見ることが出来なかった利用者様の一面をたくさん見ることができ、スタッフとして非常に有意義な時間となりました。また、参加者の利用者様にも楽しんでいただけたと思いますし、とても良い刺激になったと思います。絵画を見たり、実際に手を動かして作業したりすることで、過去の経験やその当時の感情を自然と思い出し、参加者同士の積極的なコミュニケーションが生まれる素敵な事業だと感じました。

■ 医療法人社団 綾和会 掛川東病院（静岡県掛川市）
『介護老人保健施設 桔梗の丘』

今回の企画のお話があり、高齢の利用者様への楽しみある支援の一貫になると、喜んで引き受けさせて頂きました。プログラムはアート鑑賞と創作活動で構成されており、どちらも自由な発想を大切にされ、ファシリテーターによって、利用者様の気持ちや言葉が引き出されていました。また、アートを通じて、自己表現し、共感し、認め合い、良好なコミュニケーションは、心身の健康に効果が得られるのだと感じる機会となりました。

■ デイサービス すまいるほーむ（静岡県沼津市）

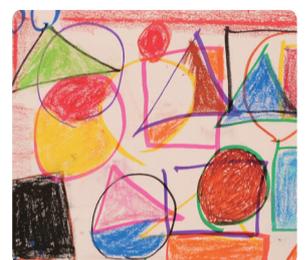
今回の対話型鑑賞と作品制作のワークショップは、利用者さんにとってもスタッフにとっても、大変よい刺激になったように思います。対話型鑑賞では、本田さんのカラフルで抽象的な作品に対して、どのように見ればよいのか戸惑いや混乱を覚える利用者さんもありました。また、作品制作の場面でも、白いキャンバスに自由に描くことに対して、多くの利用者さんが戸惑いを見せていました。しかし、対話を重ねるうちに、また本田さんの促しを受けるうちに、「自由に感じてよい」「自由に描いてよい」ということを理解し、次第に気持ちが解放されていったようでした。

その結果、鑑賞では思いがけない発想や発言が生まれ、作品制作では、普段あまり興味を示さない利用者さんが夢中になって取り組み、最終的にはとても個性的な作品を仕上げることができました。これは、日常的に接しているスタッフにとっても驚きであり、「この利用者さんがこんな発想をするんだ」「こんな絵を描くんだ」「こんなに夢中になるんだ」と、いくつもの新たな発見がありました。おそらく、スタッフ自身も、普段は固定観念にとらわれていた視点が解放されたのかもしれない。

すまいるほーむでも、絵を描いたり造形物を作ったりする機会がありますが、見栄えの良さや利用者さんの戸惑いを避けるために、大幅に手伝ってしまうことが多かったように思います。そのため、利用者さんが自由な発想で作品を作る環境が十分に整えられていなかったのかもしれない。

今回のワークショップを通じて、作品制作の醍醐味は、完成した作品そのものだけではなく、そのプロセスの中で「面白い」と感じたり、「夢中になる」瞬間があったり、「新しい発見」や「自分の新たな才能の開花」を体験したりすることにあるのだと、改めて認識することができました。

今後の活動にもこの学びを生かし、より自由な表現の場を提供できるようにしたいと思います。また、スタッフにとっても大変勉強になる機会でしたので、ぜひまたこのようなワークショップに参加させていただきたいと思います。



2つの企画を連続して行うこと、また3つの異なる特徴を持った施設で実施することで、アートへの関わり方を幅広く検証することができた。

「アートへの関心」というくりだけではなく、コミュニケーション手段である「対話」と自己表現である「制作」という行為の違いによって、それぞれの企画への参加姿勢に個性が現れていた。

鑑賞作品の提供および絵画制作ワークショップで「つくり手」として協力いただいた「超老芸術」作家の本田照男さんは、参加者と年代が近く、また60歳から描き始めたことやその半生を語っていただいたことで参加者から親近感や強い関心が寄せられた。参加者に対しては、上手い / 下手ではなく楽しむことを重視する感覚が共有されたように感じる。

ある施設では帰り際に「また本田さんに来て欲しい」と告げる参加者もあり、作品制作を通じて人同士のつながりが生まれていく様子が見られた。

改善点としては、参加者にとって、施設運営者や担当職員にとって、また参加しない利用者にとっても、不安のないプログラムにしていく必要を感じた。

本事業は実験的なプログラムのため、未知の部分が多く、施設



運営者及び参加者に対して「何を」「どのようにやるのか」という点を伝えられていなかった。企画ごとの説明が、施設運営者向け、参加者向けそれぞれに必要であった。今後はわかりやすい資料を提示できるようにしたい。

高齢者施設ならではのスケジュール感や利用者の過ごし方等について、企画者側の知識も不十分だった。3つの施設それぞれが規模・種類（デイサービス、入所施設等）・利用者同士の距離感が異なっており、より“その施設”に適した形を検討できれば良かった。

今後の機会があれば、今回の3施設の具体的な事例をもとにチェックシート等を作成して聞き取りを行い、参加者の普段の過ごし方、施設の特徴、職員配置等を把握したうえで施設に合った適切なプログラムを組み立てていければ、より効果のある事業になると考える。

本田さんはワークショップの最後に「ぜひ描き続けてほしい。私たちは残された時間が少ないが、どんどん描いていってその絵を飾っていけば幸せな気持ちになる」と熱く語っていた。

今回の事業は参加者にとって、何か技術を習得するものでも、一つの答えを求めるものでもない。高齢者の方ひとりひとりが長い人生の中で積み重ねてきたストーリーが、このプロジェクトを通じて少しでも思い出され、何かの形で心に残り、日々の豊かさにつながることを願う。

